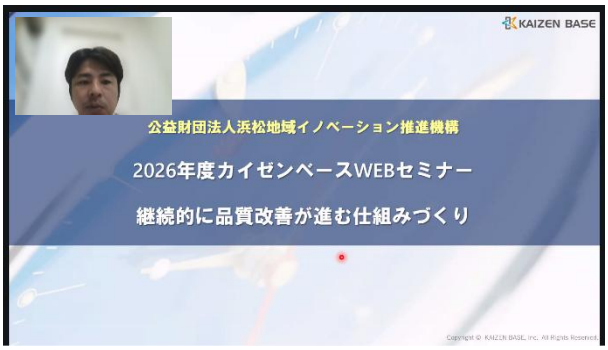
■　自動車工学関連講座（中堅技術者向け Web セミナー）
第４回「継続的な品質改善の仕組みづくり」（会員限定）

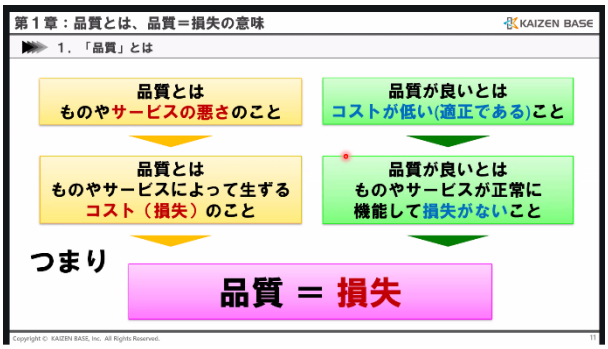
次世代自動車センター浜松では、会員企業の皆様から希望の多い中堅社員向け社内教育として、汎用的なテーマを取り上げ、自動車工学関連講座の一環として、中堅技術者向け Web セミナーを開催しています。

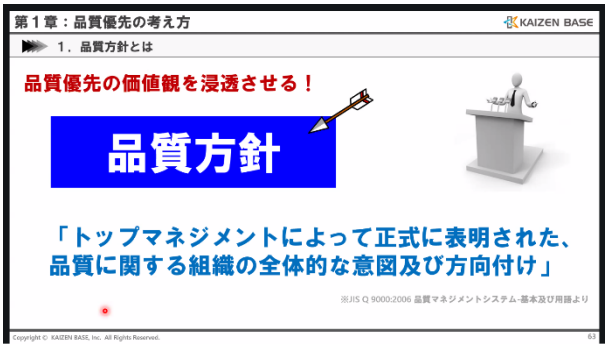
本年度も、多くの社員の皆さんが自社内で受講できる機会を企業力アップにご活用いただくため、カイゼンベース社を講師に、昨年度から内容も見直し、６回連続の Web セミナーとして順次実施しています。

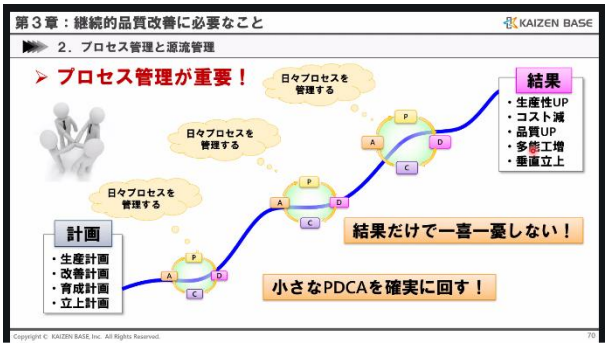
今回は、第４回として「継続的な品質改善の仕組みづくり」を Web セミナー形式で開催しました。

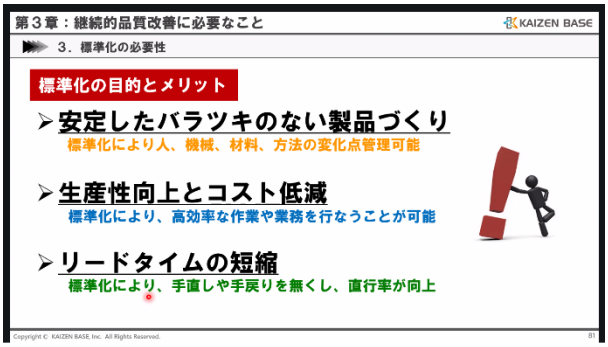
■日　時　：　２０２６年９月１６日（水）13 時 30 分～15 時 30 分
■場　所　：　Ｗｅｂ形式
■参加者　：　５０社／２７９名

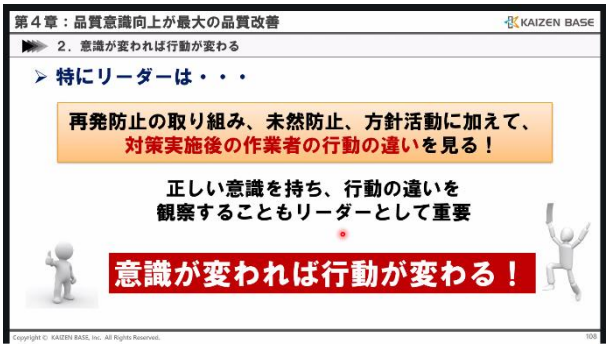












【参加者の声】

・品質改善には不具合発生後の対策だけでなく、品質問題を未然に防ぐ仕組みづくりの重要性を再認識した。最終的には一人ひとりの品質意識と行動が重要であるということが印象に残った。ルールを守るだけでなく、改善し続ける姿勢を持つことの大切さを学ぶことができた。
・品質の意味、異常処置の重要性、品質意識が、改善を行ううえで大切なことだと学ぶことができた。
・品質を単なる「良し悪し」ではなく「損失(コスト)」と定義する視点や、異常処置における「止める・呼ぶ・待つ」の徹底の重要性など、現場ですぐに意識・実践すべき内容で、大変勉強になった。また、もぐら叩き的な対策を脱却し、PDCA と SDCA の両輪を回しながら源流管理へと移行していく考え方は、今後の継続的な品質改善活動において非常に参考になった。
・品質意識の向上が非常に大切であると痛感した。ルールを取り決めても、守ってもらわないと意味がないこと、守れるルール作りを心がけ定期的にルールを守ることの大切さを教育指導することで品質意識向上に努めたい。また、教育後の作業観察もおろそかにしないように管理者側も品質意識を高く持つようにしていきたい。
・品質を良くしていくためには、会社全体（特に職場の風土づくりなど）で作り上げることが重要だと感じた。
・小規模の会社では年長者や経営層の古い考え方による独自のルールで動いてしまっている部分があるため、標準化をしていく上での基盤部分が学べたのはとても良かった。実際に現場で作業する社員の意識変革と、自分たちでルールを築き上げて、運用していくにはどうすればよいか考える良いきっかけになった。
・品質保証の業務や日常の品質活動に直結する内容であった。品質＝損失という品質工学の考え方が新たな学びとなった。不具合発生後の対症療法ではなく未然防止・源流管理の重要性、異常時の処置・原因分析・標準化までを一連の仕組みとして定着させる必要性を再認識できた。人材育成、品質意識の向上、報告しやすい職場環境づくりも品質改善に不可欠と理解できた。日常業務の中で見落としがちな品質の基本を振り返る機会となった。
・不具合対策を単なる現象処置で終わらせず、SDCA（標準化）で定着させる重要性を再認識できた。特に、異常時の「正しく止める・呼ぶ・待つ」の徹底や、現場で守れるルール作りの視点が大変有益だった。
・標準作業の徹底、５Ｗ１Ｈ及び４Ｍ変化点管理、不具合品の選別、検査にて発見された事象の源流対策、標準化の重要性を再認識できた。
・品質改善は、不具合が発生してから対策するだけではなく、日頃から異常に気づき、ルールや標準を守りながら継続的に改善していくことが重要だと改めて感じた。今回学んだ内容を、今後の品質改善や再発防止、未然防止の活動に活かしていきたい。
・守ってもらえるようなルール作りや環境を整え、根本的な原因追究をしなければ品質は維持できないと勉強になった。
・異常が発生した際は止める・呼ぶ・待つを徹底する。作業者一人ひとりの異常報告レベルを上げることで、品質改善に繋げることができる。５Ｗ１Ｈ・現状保管の教育の大切さを学べた。
・品質改善は、事実に基づく対策・再発防止、最後は人の品質意識が重要であることを再確認した。
・継続的な品質改善の仕組みについて、開発や生産の源流から作りこむことの大切さと、異常処置時の心構えについて学んだ。